

令和2年度10月期入学

京都大学大学院情報学研究科

博士後期課程学生募集要項

(国際コース及び社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜を含む)

(令和2年2月実施)

京都大学大学院情報学研究科

## 情報学研究科アドミッション・ポリシー

京都大学情報学研究科の掲げる「情報学」は、広く自然、人工、社会および生命システムにおける「情報」を対象としており、情報学研究科の教育研究は「人間・社会と情報とのインターフェース」、「数理モデリング」、「情報システム」というキーワードを3本の柱とする「広い意味での情報学」で特徴づけられています。情報学研究科ではこれらのキーワードに関連する個々の学術分野において新しい学術や技術を創生するだけでなく、情報の本質を理解し、情報技術が人類・社会に与える影響を理解し、情報に関する科学・技術が正しい方向に進展することを目指し、京都大学の目指す地球社会の調和ある共存の実現に「広い意味での情報学」の視点から貢献しようとしています。

情報学研究科はこのような研究科の理念を理解し、情報学研究科の掲げる「広い意味での情報学」の学術や技術の学修に熱意を持ち、また未来に向けて情報学の新たな領域を開拓しようとする意欲を持った優秀な学生を、幅広く受け入れたいと考えています。そのため、志願者の学修・研究を志す学術分野について一定の基礎学力を有していれば、理系・文系という枠組みにとらわれず、「広い意味での情報学」と関わる多様なバックグラウンドの学生を、国内に限らず世界中から広く受け入れたいと考えています。また、既に社会に出て活躍している人に対しても、熱意をもって学ぼうとする人には広く門戸を開いています。

具体的には、京都大学が望む、優れた資質を有して学問に対する意欲に溢れた人材で、情報学研究科の目指す「広い意味での情報学」に関わるいずれかの学術分野に関心を持ち、その分野に関する基礎学力を有し、さらに高いコミュニケーション能力を有する人材を、出身にとらわれずに幅広く受け入れたいと考えています。さらに博士後期課程では、各自の専攻学術の基礎学力を背景に「広い意味での情報学」の最先端の知見を熱意をもって学修し、それをもとに今後の情報学の発展に寄与する学術の創生や技術開発の研究に熱意をもって取り組む人材を受け入れたいと考えています。

情報学研究科の知能情報学専攻、社会情報学専攻および通信情報システム専攻には国際コースが設置されている。国際コースでは英語だけでの修了が可能である。

本募集要項における日時の表示については、すべて日本標準時とする。

募集要項に関しては和文で書かれた本募集要項が正規版であり、英文版は参考資料である。また英文版は <http://www.i.kyoto-u.ac.jp/en/admission/application.html> からダウンロード可能である。

## I. 募集人員

全専攻 若干名

◎知能情報学専攻、社会情報学専攻および通信情報システム専攻は国際コースを含む。

◎全専攻とも社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜を含む。

## II. 出願資格

◎ 次の各号のいずれかに該当する者、あるいは、令和2年9月末をもって、該当する見込みの者。

- 1 日本の大学院の修士の学位又は修士（専門職）若しくは法務博士（専門職）の学位を有する者
- 2 外国において、本学大学院の修士課程又は専門職学位課程に相当する課程を修了した者（注1）
- 3 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、本学大学院の修士課程又は専門職学位課程に相当する課程を修了した者（注1）
- 4 我が国において、外国の大学の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程（本学大学院の修士課程又は専門職学位課程に相当する課程に限る。）を修了した者（注1）
- 5 国際連合大学（国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項の規定によるものをいう。次号において同じ。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者（注1）
- 6 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格した者であって、本学において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者（注2）
- 7 文部科学大臣の指定した者（注3、注4）
- 8 本研究科において、個別の出願資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達している者（注4）

注1. 合格者については入学手続に先立って入学資格を別途確認するが、その際に虚偽が判明した際は遡及して合格を取り消す。

注2. 出願資格6によると考えられる場合は令和元年12月6日（金）までに情報学研究科教務掛へ連絡すること。事前の出願資格審査を実施する。事前の出願資格審査を受けずに出願書類を提出しても受理しない。

注3. 大学を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所、研究機関、企業等において、2年以上の研究実績があり、学術論文、著書、研究発表、特許等により、本学大学院修士課程修了者と同等以上の学力があると認められる者であること。

注4. 出願資格7及び8による者は、事前に出願資格審査を受けなければならない。（出願資格審査の項参照）事前の出願資格審査を受けずに出願書類を提出しても受理しない。

### Ⅲ. 社会人特別選抜について

前記Ⅱの出願資格を満たし、出願時において、官公庁、会社等に在職し、入学後も引き続きその身分を有する者で、所属長の推薦を受けた者を対象に特別選抜を行う。

### Ⅳ. 外国人留学生特別選抜について

外国人留学生で前記Ⅱの出願資格を満たし、所定用紙による「Letter of Recommendation (推薦書)」が提出可能な者を対象に特別選抜を行う。推薦書は日本語または英語で記載のこと。

### Ⅴ. 出願資格審査 (出願資格7及び8による出願希望者。出願資格6については事前に情報学研究科教務掛へ連絡すること。)

出願に先立ち資格審査を行うので、次の書類を、令和2年1月6日(月)午後5時までに情報学研究科教務掛(総合研究8号館1階)に提出すること。郵送の場合は、必ず書留速達便とし、封筒の表に「令和2年度10月期博士後期課程募集出願資格認定申請」と朱書すること。

#### 1. 出願資格審査必要書類 (\*印は、募集要項に所定用紙が添付されている)

提出書類は日本語または英語で作成すること。日本語あるいは英語でない書類には、日本語訳あるいは英語訳を添付すること。

*	1 出願資格認定申請・調書	(出願資格7、8該当者)
	2 卒業証明書(最終学歴)	(出願資格7、8該当者) 最終出身学校が作成したもの
	3 成績証明書	(出願資格7、8該当者) 最終出身学校が作成したもの
	4 研究経過報告書	(出願資格7、8該当者) 入学後に研究・学修を希望する内容を視野に入れて、これまでに研究・学修した内容をA4判10枚程度以下にまとめること。(様式随意)
*	5 研究従事内容証明書	(出願資格7該当者) 所属機関等が作成し、厳封したもの。
	6 資格免許証等	(出願資格7該当者) 専攻分野に関連する各種免許証等参考になるとと思われる書類の写し(A4判として簡単な説明を付すこと)

#### 2. 審査方法及び日程

(1) 出願資格の認定申請をした者には、書類審査の後、口頭試問を行う。なお、提出された出願書類等の審査によって口頭試問を省略することがある。

また、過去に本研究科の出願資格審査を受け、出願資格を有すると認定された者は、上記必要書類の\*1の申請・調書のみ提出すれば十分である。口頭試問は省略する。

(2) 口頭試問は、令和2年1月9日(木)に本研究科において行う。

(3) 資格審査の結果は、令和2年1月10日(金)に申請者あてに郵送により通知する。

## VI. 博士後期課程出願書類等（\*印は、募集要項に所定用紙が添付されている）

提出書類は日本語または英語で作成すること。日本語あるいは英語でない書類には、日本語訳あるいは英語訳を添付すること。提出書類に不正のある場合は失格とし、入学後に判明した場合には、過去に遡って合格を取り消す。

海外からの出願の場合に限って、当研究科ホームページから入学願書等をダウンロードして出願することが可能である。

<http://www.i.kyoto-u.ac.jp/en/admission/application.html>（英語）

* 1	入 学 願 書	正確に記入すること
2	修了（見込）証明書	最終出身学校が作成したものであって、入学年月および卒業（見込み）年月が明記されているもの。なお、出願時期の関係で修了見込証明書が発行されない場合は、その旨を記した文書（様式自由）を在籍大学から発行してもらうこと。
3	成 績 証 明 書	最終出身学校が作成したもの。ただし、出願資格7及び8該当者は不要
4	研 究 経 過 報 告 書	入学後に研究・学修を希望する内容を視野に入れて、これまでに研究・学修した内容をA4判10枚程度以下（様式随意、研究発表等で用いた資料のある場合は別添可）にまとめること。ただし、日本語または英語で書かれた修士論文またはその予定稿がある場合は、それをもって代えることができる。また出願資格7及び8該当者で出願資格審査必要書類として既に提出している場合は不要。
5	研 究 計 画 書	これまでの研究経過を踏まえ、博士後期課程での研究計画をA4版2枚（様式随意）にまとめたものを提出すること。 冒頭に出願専攻内の志望区分と出願者名を明記すること。
6	在留カード又はパスポートの写し	外国人留学生で、日本に在留している者は、在留資格・在留期間及び現住所が記載された在留カードの表裏両面の写しを、海外在住の者はパスポートの顔写真のあるページの写しを、A4サイズ用の紙にコピーして提出すること。
7	入学検定料振込書類	入学検定料については、「EX-決済」にて支払うこと。以下のURLにアクセスし、画面の指示に従って入学検定料（30,000円）を支払い、支払い確認画面から収納証明書を印刷したものを必ず出願書類と共に提出すること。  <a href="https://www3.univ-jp.com/kyoto-u/inf/">https://www3.univ-jp.com/kyoto-u/inf/</a>  振込期間 令和元年12月16日(月)～令和2年1月15日(水) (最終日は午後5時まで)  (期間外取扱不可)  <b>* 日本国内から出願する場合</b> 指定のコンビニエンスストア、クレジットカード（VISA、Master Card、JCB、AMERICAN EXPRESS、Diners Club INTERNATIONAL）、金融機関ATM（Pay-easy）または指定のネットバンキングのいずれかで支払うこと。（出願者本人の名義ではない（例：両親等）クレジットカードや銀行口座での支払いも可能。）

		<p><b>* 日本国外から出願する場合</b>  クレジットカード (VISA、Master Card、JCB、AMERICAN EXPRESS、Diners Club INTERNATIONAL) により支払うこと。(出願者本人の名義ではない(例:両親等)クレジットカードでの支払いも可能。)居住している国、地域の事情等により、クレジットカードでの支払いができない場合は、12月20日(金)までに末尾の【問合せ先】に連絡すること。</p> <p><b>【入学検定料の免除等について】</b>  ※1 国費留学生は入学検定料が不要である。国費留学生であることが分かる証明書等(写しも可)を提出すること。  ※2 本学大学院修士課程修了見込み者は不要である。  ※3 平成23年3月に発生した東日本大震災、平成28年4月に発生した熊本地震、平成30年7月豪雨、平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震、令和元年台風第19号による災害救助法適用地域において、主たる家計支持者が被災した者については、罹災証明書等を得ることができる場合は、入学検定料を免除することがある。詳細については、令和元年12月25日(水)までに情報学研究科教務掛まで問い合わせること。</p>
*	8 入学手続き書類送付用シール	入学手続き書類送付用とし、所定の用紙に令和2年9月上旬の住所・氏名・郵便番号を記入すること。(提出後、住所変更があった場合には、速やかに届け出ること。)
*	9 受験票送付用封筒(募集要項添付の封筒を使用する場合)	募集要項添付の封筒に、704円切手(速達・簡易書留扱い)を貼り、令和2年2月上旬に受験票を受け取る住所・氏名・郵便番号を記入のこと。
*	10 合否結果通知書送付用封筒(募集要項添付の封筒を使用する場合)	募集要項添付の封筒に令和2年2月下旬の住所・氏名・郵便番号を記入すること。(提出後、住所変更があった場合には、速やかに届け出ること。)
	11 あて名票A(海外からの出願の場合で募集要項をダウンロードして出願する場合)	受験票送付用とし、所定の用紙に令和2年2月上旬の住所・氏名・郵便番号を記入すること。
	12 あて名票B(海外からの出願の場合で募集要項をダウンロードして出願する場合)	合否結果通知書送付用とし、所定の用紙に令和2年2月下旬の住所・氏名・郵便番号を記入すること。(提出後、住所変更があった場合には、速やかに届け出ること。)
	13 あて名票C(海外からの出願の場合で募集要項をダウンロードして出願する場合)	入学手続き書類送付用とし、所定の用紙に令和2年9月上旬の住所・氏名・郵便番号を記入すること。(提出後、住所変更があった場合には、速やかに届け出ること。)
	14 TOEFL/TOEIC/IELTS スコア票	(知能情報学専攻、通信情報システム専攻志願者) TOEFL テストの ETS から送付された公式スコアレポート (Examinee Score Report) の写し、あるいは TOEIC 個人用公式認定書 (Official Score Certificate) の写しを提出すること。

		(社会情報学専攻志願者のみ) TOEFL テストの ETS から送付された公式スコアレポート (Examinee Score Report)の写し、TOEIC 個人用公式認定書 (Official Score Certificate)の写し、IELTS の成績証明書(Test Report Form)の写しのいずれかを提出すること。  詳細はⅦ. TOEFL/TOEIC/IELTS テスト受験に関する注意事項に従うこと。
*	15 選 択 科 目 申 告 表	(数理工学専攻志願者のみ)

(注1) 外国人留学生で留学生特別選抜に出願する者は「Letter of Recommendation」(所定の用紙)を提出すること。

(注2) 本学他研究科の在学生在で合格した場合は、入学手続き時に退学(または修了)証明書の提出が必要である。現在の身分を偽って出願した場合は、入学後であっても、過去に遡って合格を取り消すことがある。

(注3) 外国人留学生で合格した者は、本学への入学に際して、在留資格(留学)および在留期間の記載された住民票の提出が必要である。

(注4) 知能情報学専攻、社会情報学専攻、通信情報システム専攻では、英語能力の評価に TOEFL/TOEIC/IELTS (ただし IELTS は社会情報学専攻のみ) テストのスコアを利用する。詳細についてはⅦ. TOEFL/TOEIC/IELTS テスト受験に関する注意事項を参照のこと。

(注5) TOEFL/TOEIC/IELTS スコア票等について、不正が判明した場合は失格とし、入学後であっても、過去に遡って合格を取り消す。

(注6) TOEFL/TOEIC/IELTS テストのスコア票等の提出のない場合は、英語能力の評価を0点として扱う。

◎社会人特別選抜枠に出願する者は、上記書類の他、下記の書類を提出すること。(※印は、募集要項に所定用紙が添付されている)

*	推 薦 書	所属の長又は指導的立場にある者が作成したもの。
	研 究 実 績 調 書	在職中に行った研究実績を志望する研究分野の視点から記載すること。(A4判、様式・分量随意)

## Ⅶ. TOEFL/TOEIC/IELTS テスト受験に関する注意事項

1. 各自で TOEFL テスト、TOEIC Listening & Reading テスト、または IELTS テストの申込手続きを行い、受験すること。TOEFL、TOEIC、IELTS テストの受験に必要な費用は各自で負担すること。
2. ペーパー版 TOEFL (TOEFL PBT)、インターネット版 TOEFL (TOEFL iBT) のいずれかの ETS から送付された公式スコアレポート (Examinee Score Report)の写し、TOEIC の個人用公式認定書(Official Score Certificate)の写し、または IELTS の公式成績証明書(Test Report Form)の写しを出願時に提出すること。
3. 出願締切日の2年前以降に受験した TOEFL/TOEIC/IELTS テストのスコア票に限り提出が可能である。団体試験用の TOEFL ITP のスコア票やカレッジ TOEIC 等の団体特別受験制度 (IP テスト) は受け付けない。
4. TOEFL、TOEIC、IELTS を合わせて複数回受験している場合、そのうちいずれか1つのスコア票を提出すること。
5. TOEFL PBT、TOEFL iBT のスコアについては、米国の Educational Testing Service(ETS) が公表している換算表に従って換算する。

TOEIC の得点については、 $TOEIC \text{ 得点} \times 0.348 + 296 = TOEFL \text{ PBT 得点}$ により TOEFL PBT の得点に換算する。

IELTS のスコアについては、英国 Sheffield 大学の英語教育センターの点数比較表に従って TOEFL の得点に換算する。

6. 出願時に上記2で指定するスコア票等の提出が間に合わない場合は、出願時に、その旨を明記した書面を提出すれば、2月5日の最初の試験科目の開始前に、試験会場での提出を認める。ただし、その時点で提出されない場合は、提出なし（すなわち、英語能力の評価を0点）として扱う。
7. 提出された書類は返却しない。

## VIII. 出願手続及び注意

1. 出願者は、出願書類等を次の提出先（受付会場）へ持参または、郵送により提出すること。郵送の場合は、封筒の表に「令和2年10月期博士後期課程募集出願書類在中」と**朱書**し、必ず**書留速達便**とし、次の郵送先へ郵送すること。なお、提出された出願書類に不備があれば、こちらから問い合わせることがある。
2. 受験票の発送により、受理したことへの通知へ代える。
3. 出願書類受理後は、原則として出願事項の変更は認めず、出願書類が受理された場合の入学検定料の払い戻しには応じない。原則として、提出された出願書類は返却しない。
4. 外国の大学を卒業並びに大学院を修了した者及び外国において修士の学位を取得した者について、合格発表の後に、入学資格の確認を行う場合がある。京都大学の定める入学資格に該当しない場合は、入学試験において合格と判定されても、入学手続きが受理されない。
5. 複数専攻への出願及び同時に行われる第2次博士後期課程学生募集との併願は認めない。

【出願書類等受付日】 令和2年1月15日（水）

受付時間：午前10時から午後5時まで（正午から午後1時の間を除く）。  
（郵送による受付は、1月15日（水）午後5時までの到着分とする。）

提出先

【受付会場】 京都市左京区吉田本町  
京都大学大学院情報学研究科事務室（総合研究8号館1階（裏表紙構内図参照））

郵送の場合

【郵送先】 〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
京都大学大学院情報学研究科教務掛 TEL (075)753-4894, 5500

6. 障害等があつて受験上の配慮を必要とする出願者の事前相談を受け付ける。相談の内容によっては対応に時間を要することもあるため、相談依頼文書（様式随意、ただし下記情報を含むこと）に障害者手帳の写し又は医師の診断書を添付し、1月8日（水）までに上記出願書類提出先に持参または郵送により提出すること。

### 【相談依頼文書に明記する事項】

- ・ 氏名、生年月日、性別、住所、電話番号、メールアドレス
- ・ 志望専攻名、課程（修士・博士後期）
- ・ 障害等の種類、程度
- ・ 希望する配慮事項

## IX. 入学者選抜方法及び検査日程

1. 入学者の選抜は、次の日程により本研究科において行う。

### ◎令和2年度10月期入学博士後期課程学力検査日程

社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜を含む。

試験科目の内容、出題範囲、選択形式などの詳細については、後掲Xに記載されているので熟読すること。

※1 提出された出願書類等の審査によって、筆記試験の一部または全部を省略することがある。省略する場合には、願書に記載された現住所宛に令和2年1月31日（金）までに連絡する。

※2 \*印の科目は、当該専攻において社会人特別選抜該当者には課さない科目である。

専攻	令和2年2月5日(水)		令和2年2月6日(木)		令和2年 2月7日(金)
	試験時間	試験科目	試験時間	試験科目	
知能情報学	13:00～15:00	専門小論文	10:00～	口頭試問	予備日(注2)
社会情報学	10:00～12:00	情報学基礎	予備日(注2)		/
	13:00～15:00 16:00～	専門科目 口頭試問			
先端数理学	10:00～12:00	筆記試験	予備日(注2)		/
	13:30～	口頭試問(注1)			
数理工学	13:00～16:00	専門科目*	13:30～	口頭試問	予備日(注2)
システム科学	10:00～12:00	専門科目	予備日(注2)		/
	13:00～	口頭試問			
通信情報システム	9:00～12:00	専門科目*	予備日(注2)		/
	14:00～	口頭試問			

注1. 先端数理学専攻の口頭試問出頭時間は、令和2年2月5日（水）午前9時30分までに、情報学研究科事務室前入試用掲示板（総合研究8号館1階）に掲示する。筆記試験が省略された者については、口頭試問の開始時間を午前10時に繰り上げることがある。

注2. 気象警報の発令等により試験実施が困難な場合は、予備日を利用して試験の実施日程を繰り下げることがある。試験日時を変更する場合は、試験当日の朝にWEBページ（<http://www.i.kyoto-u.ac.jp/>）にて告知するので受験生は必ず確認すること。

2. 受験票は、出願時に指定された受け取り先の住所に1月下旬に郵送する。2月3日（月）までに受験票が届かない場合は、本要項【問合せ先】に記載のメールアドレスに問い合わせること。なお、海外在住者には受験票をスキャンしたPDFファイルを入学者願書に記載のメールアドレス宛に送付するので、紙に印刷したものを持参すること。

3. 試験場等受験に関する注意事項の掲示について

掲示内容については各自で確認すること。電話等による問い合わせには応じない。

日時：令和2年2月4日（火）午後1時以降に行う

場所：情報学研究科事務室前入試用掲示板（総合研究8号館1階：裏表紙構内図参照）

4. 試験当日は、試験開始20分前までに当該試験室前に集合すること。なお、口頭試問について、専攻によって別の指示があるときはその指示に従うこと。

5. 学力検査（筆記試験）に関する注意事項

① 試験室では必ず受験票を携帯し、試験監督の指示に従うこと。

② 試験に使用を許す筆記用具等は、鉛筆・万年筆・ボールペン・シャープペンシル・鉛筆削り・消しゴム・定規・時計（計時機能だけのもの）に限る。スマートフォン・携帯電話等を机の上に出すことはできない。

③ 辞書・事典（電子辞書を含む）の使用を許可しない。

④ その他参照物については、専攻の指示に従うこと。

- ⑤ 試験開始時間に遅れた場合は、各科目とも試験開始後30分以内に限り入室を認める。
  - ⑥ 欠席した科目の点数は0点として扱う。2科目以上欠席した場合は失格として扱うので、以後の科目を受験することはできない。
6. 口頭試問に関する注意事項  
口頭試問の対象者で口頭試問を欠席した場合は失格として扱う。

## **X. 専攻志望区分及び試験科目についての補足**

- 1. 各専攻の志望区分及び試験についての補足は、次頁以降に記載。
- 2. 志望区分について

入学願書の所定欄及び研究計画書冒頭に、志望する専攻の志望区分の中から1つのみを選択して記入すること。志望区分の選択にあたっては、出願に先だち、当該区分に属する本研究科の教員と連絡をとり、研究方向の適性等について十分な指導を受けておくこと。

入学願書に記載された事項は、原則として、願書が受理されてからは修正・変更できないので、注意して記入すること。

(注意) ※印を付した志望区分は今回募集を行わないので、選択することはできない。

なお、「志望区分案内」は <http://www.i.kyoto-u.ac.jp/admission/application.html> に掲載されているので、出願前に必ず確認すること。

## (1) 知能情報学専攻

### (ア) 研究経過報告書についての補足

出願までの研究成果をA4用紙2ページ以上10ページ程度以下(様式自由)に日本語または英語で記載すること。修士論文を執筆した場合は、必ず修士論文も提出すること。

### (イ) 研究実績調書についての補足

主要な学術論文(修士論文以外で公表されたもの)があれば、合わせて提出すること(提出できるのは3編以内)。

### (ウ) 専門小論文についての補足

志望区分ごとに出題する。志望区分における大学院博士後期課程での研究課題に関連する出題を行う。

### (エ) 口頭試問についての補足

「これまでに行った研究の概要と希望する研究」に関して10分程度の発表と数分の質疑を日本語あるいは英語で行う(発表に使用できる機器は書画カメラのみであるので、各自A4用紙を用いてプレゼンテーション用の発表資料を準備し、口頭試問に臨むこと)。

### (オ) 筆記試験についての補足

筆記試験は、日本語と英語が併記で出題される。解答は日本語あるいは英語で行うこと。

### (カ) 合格者決定に関する補足

専門小論文の点数、口頭試問の点数(出題書類の内容評価を含む)、TOEFL/TOEICスコア、各志望区分の受入れ可能な学生数を総合して合格者を決定する。配点は、専門小論文100点、口頭試問200点、TOEFL/TOEICスコア100点である。

### (キ) 志望区分及び研究分野

志望区分	研 究 分 野
知-1	脳情報学、ブレイン・デコーディング、ブレイン・マシン・インターフェース、脳イメージング、計算論的神経科学、視覚科学
知-2	心理情報学、高次脳機能、認知神経心理、認知的インタフェース、ニューロマーケティング、認知科学
知-3	認知情報学、映像メディア技術、認知神経ダイナミクス、心理物理学、脳機能計測
知-4◎	計算論的認知神経科学、計算脳科学、意思決定と強化学習、社会知性の脳計算、脳型知能と機械学習、ヒトfMRI実験と理論
知-5	知能計算、知識発見、計算論的学習、機械学習のための最適化
知-6	集合知システム、機械学習、データマイニング、ヒューマンコンピューテーション
知-7	会話情報学、人工知能、インタラクション、視覚計算、認知的デザイン
知-8	言語メディア、言語情報処理、言語解析、言語生成、機械翻訳、情報検索
知-9	音声メディア、音声認識・理解、音楽情報処理、会話ロボット、統計的信号処理・パターン認識
知-10	コンピュータビジョン、視覚情報処理、視覚知能
知-11	映像メディア、大規模映像データ処理、人物行動理解、実世界環境計測・認識

知-12	ネットワークメディア、インターネット、情報セキュリティ、アルゴリズム、計算複雑性
知-13	メディアアーカイブ、言語理解、言語生成、言語知識獲得、思考・認識の言語化、シンボルグラウンディング
知-14	バイオ情報ネットワーク、バイオインフォマティクス、数理生物情報学、複雑ネットワーク

◎連携ユニット（知-4）について

本専攻では、知能情報学の基盤となる脳の計算論的理解に関する教育・研究を推進する目的で、理化学研究所脳科学総合研究センターとの間で「計算論的認知神経科学連携ユニット」を設置している。

連携ユニットは本専攻教員と上記機関の連携教員で構成され、本専攻教員の主任指導のもとで、連携教員から研究指導補助を受ける。履修要件や修了要件は、他を志望した学生と同一である。連携ユニットの連携教員や研究分野については、知能情報学専攻のホームページを参照のこと。

(ク) 専攻のホームページ

<http://www.ist.i.kyoto-u.ac.jp/>

## (2) 社会情報学専攻

### (ア) 専門科目についての補足

願書に記入された志望区分の分野から出題された3題について解答すること。

### (イ) 情報学基礎についての補足

情報学基礎に関する筆記試験は以下に指定した教科書の内容から5問出題する。このうち、3問を解答時に選択して解答すること。

- ・入門 コンピュータ科学 ITを支える技術と理論の基礎知識 (J. Glenn Brookshear 著、神林靖・長尾高弘 翻訳、KADOKAWA/アスキー・メディアワークス 出版、ISBN-10: 4048869574、ISBN-13: 978-4048869577)

※ただし、第10章「コンピュータグラフィックス」は出題範囲から除く。

### (ウ) 筆記試験についての補足

筆記試験は、日本語と英語が併記で出題され、日本語あるいは英語で解答すること。

### (エ) TOEFL/TOEIC/IELTS についての補足

社会情報学専攻では TOEFL および TOEIC とともに IELTS テストを認める。

扱いについては5頁Ⅶ. TOEFL/TOEIC/IELTS テスト受験に関する注意事項を参照。

### (オ) 口頭試問についての補足

口頭試問では、提出された研究計画書の内容について、日本語あるいは英語で10分以内のプレゼンテーションを行い、その後に質疑を行う(プロジェクタ等は使用しない)。

なお、研究計画書の書式は(キ)を参照すること。

### (カ) デザイン学大学院連携プログラム第三年次編入についての補足

研究科博士後期課程入学時に、同時にデザイン学大学院連携プログラム第三年次編入を希望する学生は、願書提出に先立って専攻長に連絡を取ること。

デザイン学プログラム URL <http://www.design.kyoto-u.ac.jp/>

### (キ) 研究計画書の書式についての補足

#### 様式

口頭試問では、志願者は提出された「研究計画書」に従ってこれまでの研究経過、博士後期課程での研究計画を10分以内で説明し、その後質疑を受ける。PC、液晶プロジェクタ等を用いたプレゼンテーションは行わない。

試験官には志願者が提出した「研究計画書」のコピーを配布する(志願者がコピーを用意する必要はない)。

試験官は「研究計画書」のコピーを見ながら志願者の説明を聞くことになるため、「研究計画書」の作成にあたっては、簡潔で分かりやすいものとなるよう各自工夫すること。(たとえば要点をまとめた図や表などを用いて内容を表現し、どの部分を説明しているかを明確にするためにそれぞれのスライドや図表にキャプションを加えるなど)。

なお、「研究計画書」のコピーはモノクロで行う(色を多用したものは、モノクロコピーすると読みにくくなることがあるため注意すること)。

## 書式

A4判2枚以下(片面2枚2ページ以内)で作成すること。

先頭ページには冒頭に志願者名と志望区分を明記すること。研究テーマの記載は任意とする。応募に至った経緯および指導を希望とする教員との連絡の経緯の詳細についても記述すること。

ページは左右上下とも2.5cm以上の余白を設定すること。

文字フォントサイズは刷り上り10.5ポイント以上とする。

PowerPointのスライドを載せる場合は、その大きさは1スライド当たり1/4ページ以上のサイズとする。

## (ク) 志望区分及び研究分野

志望区分	研 究 分 野
社-1	データベース、情報検索、データマイニング、Web工学、ユーザ生成コンテンツ、計算社会科学、電子図書館、推薦システム
社-2	ヒューマンロボットインタラクション、知能ロボティクス、センサネットワーク、インタラクション、コミュニケーションロボット、人工知能、サイバーフィジカルシステム
社-3	あらゆる情報の共有環境の実現、社会情報分析、Web情報分析、ソーシャルネットワーク分析、クラウドソーシング、情報検索、情報アクセスインタフェース
社-5	サービスコンピューティング、コラボレーション基盤の世界展開、多言語コミュニケーションのデザイン
社-6	安全・安心な情報社会の確立、暗号・認証、暗号通貨、クラウドセキュリティ、プライバシー保護
社-8	生物資源の利用と保全、農業生産システムの評価、バイオリギング、絶滅危惧種の保全
社-9	生態系の保全と利用、生態系サービスの評価、水と物質循環のモニタリング、環境情報の収集・アーカイブ・利用
社-10	総合防災施策や情報システムのデザイン、災害の経済分析、防災計画、災害リスクガバナンス、地理情報システム、時空間データベース、自治体GIS、災害対応システム
社-11	減災・防災文化、防災教育、社会心理学、災害情報、災害復興、リスク・コミュニケーション、避難意思決定支援、減災・復興ファイナンス
社-12	危機管理、災害対応、レスキュー活動、避難行動、リスク・コミュニケーション、災害時情報収集、GIS、時空間データベース、マイクロジオデータ、防災データサイエンス
社-13	情報化時代の医療の創出、電子カルテ、遠隔医療、EHR、データヘルス、ヘルスツーリズム、医用VR、画像診断支援、医療・病院管理
社-14	教育・学習工学、eラーニングシステム、ラーニングアナリティクス、教育データサイエンス、モバイル・ユビキタス学習環境、協調学習環境、適応的学習環境

英語のみで学位取得できる教育プログラム（国際コース）が提供されている。

## (ケ) 専攻のホームページ

<http://www.soc.i.kyoto-u.ac.jp/>

### (3) 先端数理科学専攻

#### (ア) 提出書類についての補足説明

研究経過報告書は、予定している修士論文の内容を視野に入れて、A4判10枚程度に纏めること。修士論文（またはその予定稿）がある場合は、研究成果報告書に代えてそちらを提出することが望ましい。

#### (イ) 専門科目についての補足

願書に記入された志望区分に関連する専攻学術について、筆記試験を行う。筆記試験は日本語で出題される。

#### (ウ) 口頭試問についての補足

筆記試験の結果により、口頭試問を省略する場合がある。口頭試問の時間は日本語または英語で行われ、概ね40分を予定しているが、提出された書類の審査等により、試問時間を短縮することがある。

志願者には研究経過報告書等の内容を30分程度口頭発表（発表時間を短縮する場合は）してもらい、その上で発表内容及び志望する研究分野等に関する質疑応答を行う。発表に際して黒板・OHPの機器およびPC用のプロジェクタは試問室に準備しているが、ノートパソコン等は準備していない。発表の際に利用する機器についての希望や質問がある場合は、出願時に本研究科事務室教務担当に申し出て予め確認しておくこと。

筆記試験の結果により口頭試問を省略した場合の扱いは、不合格である。

#### (エ) 志望区分及び研究分野

志望区分	研 究 分 野
先端-1	応用解析学、逆問題、非線型問題、偏微分方程式、数値解析、確率論、フラクタル解析
先端-2	非線形力学、非線形振動系、計算物理学
先端-3	理論神経科学、非平衡・非線形物理学、ネットワーク結合力学系
先端-4	数値シミュレーション、計算力学、計算工学
先端-5	流体力学、希薄気体力学、流体の数値計算

#### (オ) 指導教員について

先端数理科学専攻では、入学後の指導教員は、原則として本専攻の教授または准教授の中からあてる。

#### (カ) 専攻のホームページ

<http://www.acs.i.kyoto-u.ac.jp/>

#### (4) 数理工学専攻

##### (ア) 専門科目についての補足

願書に記入した志望区分以外の区分を出願時に1つあらかじめ選択し、「**選択科目申告表**」に明記して提出すること。試験では、どの受験者からも申告がなく、受験者の志望区分でもない区分からは出題しない。各受験者は、願書に記入された志望区分から2題（必須）、その他の志望区分から1題（選択）、計3題を解答すること。（今回は志望区分 数－7からは出題しない。）

筆記試験は、英語で出題される。日本語あるいは英語で解答すること。

##### (イ) 口頭試問についての補足

これまでの研究経過、これからの研究計画について20分発表の後、10分程度の質疑応答を行う。発表にあたって、プロジェクト等の使用は可能である。

##### (ウ) 志望区分及び研究分野

志望区分	研 究 分 野
数－1	数理解析、ソリトン・可積分系の数理、行列・固有値アルゴリズム
数－2	離散数理、組合せ最適化アルゴリズム、グラフ・ネットワーク、計算の複雑さ
数－3	最適化数理、数理計画の理論と応用、オペレーションズ・リサーチ
数－4	制御システム論、ロバスト最適制御、システム同定・モデリング
数－5	物理統計学、非線型・複雑系の基礎理論、確率過程の基礎と応用
数－6	力学系、微分方程式、数理物理学
※数－7	数理ファイナンス、ファイナンス工学
数－8	応用数理モデル、モデル論、社会・情報システムモデリング

※については、今回は募集しない。

##### (エ) 専攻のホームページ

<http://www.amp.i.kyoto-u.ac.jp/>

## (5) システム科学専攻

### (ア) 専門科目についての補足

願書に記入された志望区分から1題、その他の志望区分から1題の計2題を解答すること。ただし、社会人特別選抜の区分での受験者については、願書に記入された志望区分からの2題を選択しても良い。配点は1題100点。合計200点である。

### (イ) 口頭試問についての補足

これまでの研究経過、これからの研究計画について20分発表の後、10分程度の試問を行う。パソコン等による発表準備をすること。配点は200点である。

### (ウ) 英語について

英語の試験は課さない。

### (エ) 合格者決定についての補足

専門科目と口頭試問の結果、各志望区分の受け入れ可能な学生数を総合して合格者を決定する。

### (オ) 志望区分及び研究分野

「シー10」を志望する場合は、研究分野表の下に記載の(補注)にしたがうこと。

志望区分	細目	研 究 分 野
シー1※		機械システム制御、システム制御理論、メカトロニクス応用
シー2		ヒューマンシステム論、プロセスデータ解析・制御、生体・医療情報処理、農業システム工学
シー3		統合動的システム論、最適制御、非線形システム理論、分散制御理論、確率システム理論
シー4		適応システム論、情報統計力学、情報通信理論、統計的学習理論
シー5		数理システム論、統計学、機械学習、データ科学
シー6		情報システム、マルコフ解析、確率的アルゴリズム、待ち行列理論
シー7		論理生命学、知性と生命のモデル、強化学習、システム神経生物学、バイオインフォマティクス
シー8		医用工学、医用システム、医用画像解析
シー9		応用情報学、スーパーコンピューティング、高性能並列計算
シー10	(a)	計算神経科学、ブレインネットワークインターフェース
	(b)※	局所回路情報処理、神経情報の解読
	(c)※	大脳基底核と神経修飾物質、進化ロボティクス
	(d)	統計的データマイニング、統計的パターン認識
シー11		先進安全自動車、車両運動統合制御、航続距離延長技術、自動衝突回避

(補注) 志望区分「シー10」は以下の(キ)にある連携ユニットに対応する。この区分を志望する場合は、例えば「シー10(a)」のように、研究分野について細目を付記すること。

※印の「志望区分(細目)」に関しては、本年度は配属しない。

(カ) 専攻のホームページ

<http://www.sys.i.kyoto-u.ac.jp/>

(キ) 連携ユニットについて

システム科学に関する幅広い視野を有する高度人材の養成を目的として、ATR脳情報研究所、理化学研究所脳科学総合研究センター、沖縄科学技術大学院大学との間で「計算神経科学連携ユニット」を設置し、また、NTTコミュニケーション科学基礎研究所との間で「計算知能システム連携ユニット」を設置している。これら連携ユニットの研究内容は下記のとおりである。

計算神経科学連携ユニット（志望区分：シー10(a)(b)(c)）

計算神経科学、ブレインネットワークインターフェース、局所回路情報処理、神経情報の解読、大脳基底核と神経修飾物質、進化ロボティクス

計算知能システム連携ユニット（志望区分：シー10(d)）

統計的データマイニング、統計的パターン認識

各連携ユニットは当研究科教員のほか上記の他機関からの連携教員で構成され、当研究科教員の主任指導の下で他機関の連携教員からの研究指導補助を受ける。その他の履修要件、修了要件は同一である。これら連携ユニットを担当する他機関の連携教員はシステム科学専攻のホームページで公開している。

詳細は、以下の問い合わせ先に問い合わせられたい。

【連携ユニットについての問い合わせ先】

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院情報学研究科システム科学専攻長 松田 哲也

TEL(075)753-3372（時間 平日：午後1時～午後5時）

## (6) 通信情報システム専攻

### (ア) 専門科目についての補足

願書に記入された志望区分における大学院博士後期課程での研究課題に関連する3題が出題される。3題とも解答すること。

### (イ) 筆記試験についての補足

筆記試験は、日本語あるいは英語で解答すること。

### (ウ) 口頭試問についての補足

一人あたり15分程度の口頭試問を行う。受験者は、これまでの研究内容および博士後期課程における研究計画を説明する。説明時間は8分とする。書画カメラおよびPC用のプロジェクタは試問室に準備している。PCは準備していないので必要なら各自で持参すること。

### (エ) 志望区分及び研究分野

志望区分	研 究 分 野
通-1	アルゴリズム、離散構造、計算量、論理回路
通-2	算術演算回路、組込みシステム設計技術、超伝導プロセッサ
通-3	計算機ソフトウェア、プログラム理論、プログラミング言語
通-4	デジタル通信、移動体通信、無線信号処理
通-5	マルチメディア通信方式、マルチアクセス方式、衛星通信システム
通-6	情報通信ネットワーク、通信システムアーキテクチャ、トラフィック分析・制御
通-7	集積システム設計技術、並列処理アーキテクチャ、集積回路応用
通-8	集積回路工学、集積回路設計技術、LSI アーキテクチャ
※通-9	デジタル信号処理、レーダー信号処理
通-10	レーダリモートセンシング工学、レーダー大気物理学、赤道超高層大気物理学
通-11	光・電波大気計測、赤道大気科学、大気環境計測

※については、今回は募集しない。

### (オ) 専攻のホームページ

<http://www.cce.i.kyoto-u.ac.jp/>

### (カ) TOEFL/TOEIC スコア票提出に関する特例

- (1) 社会人特別選抜の受験者は提出不要。
- (2) 本研究科修士課程在学および修了の受験者に対して、スコア票提出を免除する。

## XI. 合格者発表

下記日時に掲示するとともに、合格者には合格通知書を郵送により送付する。  
(電話等による問い合わせには応じない。)

日 時：令和2年2月13日(木) 午後3時

場 所：情報学研究科事務室前掲示板(総合研究8号館1階)

当研究科ホームページにも上記同時刻以降、2月21日(金)午後3時まで掲載する。

<http://www.i.kyoto-u.ac.jp/admission/pass.html> (日本語)

<http://www.i.kyoto-u.ac.jp/en/admission/pass.html> (英語)

入学手続きについては、令和2年9月上旬に合格者あて郵送により通知する。

## XII. 長期履修学生制度について

就労・育児・介護の事情により、履修期間を最大6年迄延長することを認める制度がある。制度の適用を希望する場合は、出願に先立ち、令和2年1月6日(月)午後5時までに情報学研究科教務掛へ問合せること。

## XIII. 入学料及び授業料

入 学 料 282,000円(予定)  
(令和2年9月末に本学大学院修士課程を修了する者は不要)

授 業 料 年額 535,800円(予定)  
(長期履修学生は履修年数により異なります)

注1：国費外国人留学生は入学料・授業料ともに不要

注2：入学料および在学中に授業料が改定された場合には、改定時から適用されます。

## XIV. 個人情報の取扱いについて

個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「京都大学における個人情報の保護に関する規程」に基づいて取り扱います。入学者選抜を通じて取得した個人情報(成績判定に関する情報を含む)は、①入学試験の実施、②入学手続き、奨学金制度等、③入学者の受入準備等の業務目的において利用します。

### 【募集要項の請求】

《国内からの出願の場合》

募集要項を郵送で請求する場合は、250円切手を貼付した返信用封筒(角2サイズ24cm×34cmに住所・氏名・郵便番号を明記したもの)を同封のうえ「令和2年度10月期入学博士後期課程学生募集要項請求」と朱書し、【問合せ先】へ請求すること。出願に際しては、本募集要項に添付された出願用書類が必要である。

なお、海外からの出願の場合のみ、当研究科ホームページから入学願書等をダウンロードして出願することも可能である。

<http://www.i.kyoto-u.ac.jp/en/admission/application.html> (英語)

### 【問合せ先】

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院情報学研究科教務掛(総合研究8号館)

メールアドレス: [jyoho-kyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:jyoho-kyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

TEL (075)753-4894, 5500

(時間 平日：午前9時～午後5時〈正午～午後1時を除く〉)

令和元年11月